

地獄物語：地獄を散策

この地には、何年にも渡って語り継がれてきた歴史的な事件や伝説にまつわる場所がいくつかあり、はっきり示されています。縁がかった熱湯のたまり場「お糸地獄」は、裕福な愛人と一緒になるため夫を殺した不貞な女、お糸の伝説にまつわる場所です。この温泉はお糸の処刑と同時期に湧き上がったため、「家庭を崩壊させる者は地獄へ落ちる」という戒めとして、この名がつけられました。似たような場所に「清七地獄」があり、これは信仰を捨てることを拒絶し処刑されたキリシタンにちなんで名づけられました。また、「大叫喚地獄」が最も恐ろしいスポットの1つであることは、間違いありません。勢いよく噴き出すガスの音は、地獄に落ちた者の魂の叫びや呻き声のように聞こえます。

信者の殉教

この荒れ地を俯瞰する丘に、キリシタンの殉教者を祀った十字架と殉職碑があります。17世紀前半、キリスト教の広がりとその植民地主義との結びつきを危惧した幕府は、信者を厳しく取り締まりました。その結果、30人以上のキリシタンが拷問され、処刑されたのです。長崎と島原半島のキリシタン弾圧は、著名な作家である遠藤周作（1923～1996年）の小説『沈黙』に着想を与え、マーティン・スコセッシにより映画化されました。

暗闇での挑戦

他にも、プチ火山のような地形や、丁寧に配置された石の上で靴を脱いで地熱を体感できる、冬にはありがたいスポットがあります。昼間の明るい時でさえ、「地獄」の音や光景は不気味なものです。天気が悪い時や夜の地獄散策は一層不吉ですが、面白い体験ができるはず。